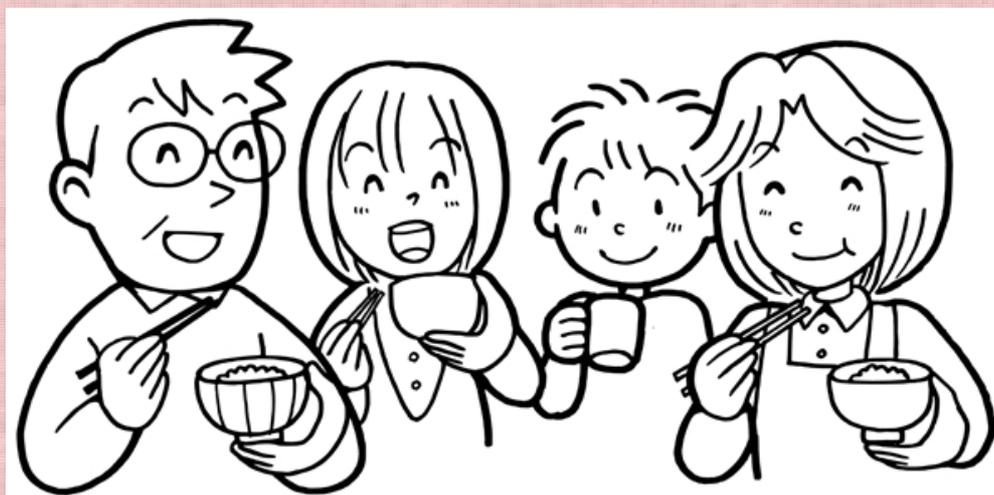


たべるではぐくむ ひとづくり まちづくり

小樽市食育推進計画素案

計画期間 平成 23 年度～27 年度



平成 23 年 月



小樽市

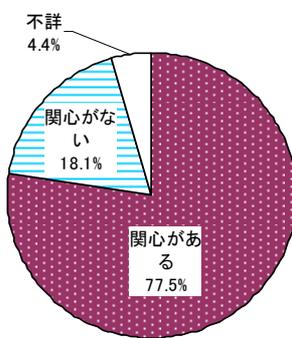
なぜ今「食育」？

近年、「食」を取り巻く環境は大きく変化し、子どもや若者の朝食欠食や孤食（家族と暮らしていながら、一人で食事をする）、生活習慣病の増加など、あらゆる年代で食生活の課題が生じています。

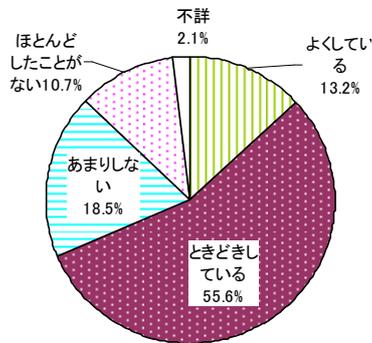
また、「食」を大切にできる心も希薄になっており、子どもから大人まで市民一人ひとりが、健全で豊かな食生活を実践することができる能力を育む食育の推進が求められています。

現状と課題

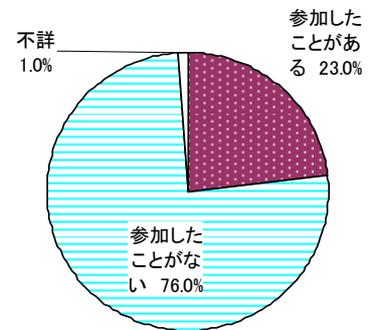
小樽市の食育推進計画を作るために、平成21年7月に市民アンケートを実施し、「食育」の現状を探りました。市民アンケートの結果からいろいろなことが見えてきました。



問：あなたは食育に関心がありますか

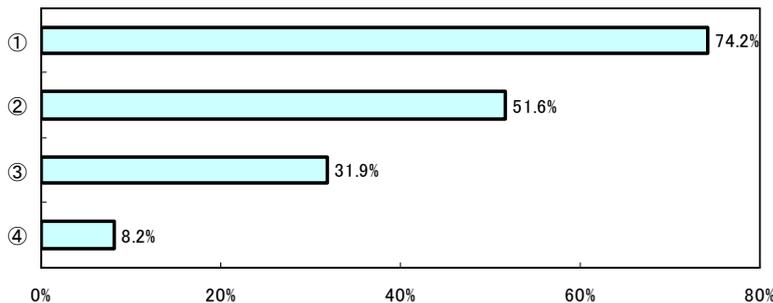


問：あなたのお子さんは食事の支を手伝いますか



問：食に関するイベントや地域の行事に参加したことがありますか

問：毎日の食生活で気をつけていることはありますか？



- ① 1日3食の食事をきちんととり、バランスのとれた食事をする
- ② 脂肪や塩分の取りすぎに注意し、生活習慣病予防を意識した食生活
- ③ 良くかんで食べる
- ④ その他



小樽市民は、「食育」への関心は高いものの、子どもが一人で食事をとっている家庭や、子どもが食事の支を手伝わない家庭もみられました。健康づくりを心がけた「食」への関心は高く、きちんと1日3食とることや、バランスのとれた食事に配慮していました。

地域でのイベントが盛んになるなど人とのふれあいの必要性が見直されていますが、市民は「食」に関するイベントや地域行事などへの関心は、低いことがわかりました。

計画の概要と目標指標

アンケート結果と既存資料をもとに、このような課題を整理し、小樽市総合計画の趣旨に沿い、「健康おたる21」と整合を図りながら食育に取り組んでいくために、計画の基本目標と指標を立てました。

基本目標

市民が「たべる」を通じて生涯にわたり健康で豊かな生活を送れるよう、ひとづくり、まちづくりを進めます

Point 1

ひとづくり

市民が正しい食生活を身につけ、また、安全な食品の提供を受けることで、健康的な生活を送ることができるようにすることを目標とします

「たべる」を楽しむ	「食」を通じたコミュニケーションを楽しみ、豊かな人間性を育てます
「たべる」を知る	「食」の安全・「食」の環境についての情報を発信します
「たべる」を身につける	より良い食習慣の知識を広めます

目標	目標指標			
	指標名	現状値		目標値
「たべる」を楽しむ	食育に関心を持っている人	市民	77.5%	90%以上
	家族の誰かと一緒に朝食をとる人	子ども	90.5%	100%に近づける
「たべる」を知る	栄養成分表示のお店	登録数	53件	増加
	おいしい空気の施設		55件	
「たべる」を身につける	食材を選ぶときに、表示等の安全について意識する人	市民	54.3%	増加
		子ども		
	毎日、朝食をとる人	市民	81.7%	90%以上
		子ども	90.1%	100%に近づける
食事バランスガイドを参考にしたい人	市民	49.2%	60%以上	
生活習慣病予防のために食生活改善を意識している人	市民	51.6%	増加	

Point 2

まちづくり

「食」を通じて、世代や地域を越えたコミュニケーションを図り、活力あるにぎわいのまちを目指します。行事食、郷土料理に親しみながら郷土愛を培い、次世代への食文化の継承に努めます。本市の新鮮で豊かな「食」を市内外に紹介していきます。

「たべる」でふれあう	「食」を通じ、地域での交流を進めます
「たべる」を伝える	地域における「食」の資源を大切に、次世代へ食文化を伝えていきます

目標		目標指標		
		指標名	現状値	目標値
まちづくり	「たべる」で ふれあう	「食」のイベントへの参加	市民 23.0%	増加
		「食」のボランティア育成(食生活改善推進員)	市民 183人	10%増
	「たべる」を 伝える	「食」に関する観光イベントの情報発信	発信数 12回	増加
		年間に行う行事食の回数(一世帯)	市民 6.0回	増加
		小樽を代表する食品や郷土料理を知っている人	市民 73.0%	増加

計画の推進

食育は、幅広い分野とかわりがあります。このため、市民を中心として、関係機関と小樽市が連携、協働して食育に取り組むために小樽市食育推進連絡会を設置し、食育施策を効果的に推進します。

